

幕末明治の写真師列伝 第四百十六回 宮下欽 その六十四

名古屋写真師会編『名古屋写真師会小史』（名古屋写真師会、1990年）の「明治四十年頃の写真館」では「西区 本町 宮下寫眞館」の名がある。

明治41年（1908）12月26日、中村利一がさらに東京の江木写真館に入門する。（註：中村利一については後に詳述する）

宮 本 末 次 郎	宮 本 直 七	宮 島 悦 次 郎	宮 下 守 雄	宮 下 匡	宮 木 利 左 衛 門	宮 崎 健 吉	宮 崎 平 四 郎
●一五 ●一五	●一六 ●一六	●一七 ●一七	●一八 ●一八	●一九 ●一九	●二〇 ●二〇	●二一 ●二一	●二二 ●二二
●一五 ●一五	●一六 ●一六	●一七 ●一七	●一八 ●一八	●一九 ●一九	●二〇 ●二〇	●二一 ●二一	●二二 ●二二
●一五 ●一五	●一六 ●一六	●一七 ●一七	●一八 ●一八	●一九 ●一九	●二〇 ●二〇	●二一 ●二一	●二二 ●二二

長江銈太郎 編『名古屋便覧』（柳城社 明治42年）では、「西区 本町 宮下寫眞館」とある。

ニコライ著、中村健之介・安村仁志訳『宣教師ニコライの全日記 第8巻 1904年～1908年』（教文館、2007年）には、明治37年（1904）3月16日「写真館の宮下がとうとう破産してしまった」とあったが、少なくとも写真館の方は、明治37年（1904）12月7日、宮下欽の隠居後、長男の宮下守雄（二代目・鈴木真一の門下）が、宮下写真館の二代目となって、明治42年（1909）頃までは名古屋市西区本町で営業を続けていたと考えられる。（註：西区は名古屋城の西に広がる地域で、明治41年（1908）4月1日に、名古屋市が4区制施行した時から存在する）

大正2年4月8日、宮下欽とその妻・なを（明治7年[1849]10月26日生まれ。愛知県知多郡有松町、粟田弥三郎養女）の間に長女・志づが生まれる。

ここで宮下写真館の場所についてももう一度整理すると、明治12年（1879）以前の正確な場所是不明だが、明治12年（1879）からは「名古屋市本町三丁目」で、明治33年（1900）頃から明治36年（1903）頃までは「名古屋市末廣町58」で、明治37年（1904）頃から明治42年（1909）頃までは「名古屋市西区本町（二丁目九番地）」にあったと考えられる。

（森重和雄）



この名刺判写真の写真台紙裏側には、「尾張國名古屋市 末廣町若宮前 写真師 宮下欽」とある。末廣町若宮前とは末廣町58のこと。



宮下欽（1837（天保8）～1919（大正8））
（前列右端の人物）